外国人困窮者支援のいま

—北関東医療相談会月間レポート：2021 年 4 月版—

■支援日誌

□4 月 15 日「第 1 回 川口医療相談会のご案内」

皆様へ

川口医療相談会の経過をお伝えします。

① 受診者は発表後、クルドを知る会の支援をいただいて 40 人があっという間に決まりました。

② クルド人の通訳者も 4 人が決まりました。

③ 当日のボランティアの役割分担を明日までに行います。
密にならないようにするために 40 人程度に抑えたいと思っていますのでご容赦ください。

④ 健康相談と同時に医療支援を行います。

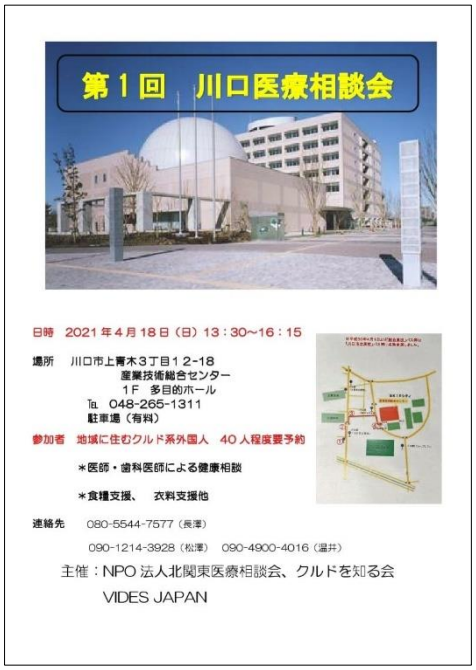
⑤ 食糧支援及び医療支援も行います。

⑥ とりあえず弁護士さんにも参加していただきます。

⑦ 明日には支援体制が判明しますのでお手伝いを願います。

⑧ 今期の活動は多分へビーな医療相談会からアウトリーチを考慮し地域の非正規滞在の外国人の課題を調査する健康相談会が中心になると思います。

⑨ 皆様の熱い応援が必要となると思いますのでよろしくお願いします。



□4 月 15 日「歴史的な連携！」

4 月 7 日（水）医療相談会の事務所で歴史的な連携の日となりました。反貧困ネットの瀬戸さん、原さん、クルドを知る会　松澤さんと温井さん、長澤が連携強化のための打ち合わせをおこないました。今後、相互に協力をして外国人の支援をしていこうということです。仮放免者、難民申請者、クルド人、技能実習生、国のいい加減な政策のために多くの外国人困窮者が生まれました。

支援団体の連携強化にて乗り越えようということです。皆様の支援をお待ちしています。

□4 月 21 日「第 1 回 川口医療相談会開催」

皆様へ

4 月 18 日の医療相談会の集合写真です。このようにクルド人への支援に集まりました。コロナ下での開催には抵抗や不安がありますが、コロナ禍であれば放置して良いのかと考えていました。

40 人と限られた人数ではありますが、かなりの重篤な方が来られました。明日以降には病院紹介と支援を加速度的に手分けして行いたいと思います。皆様のご支援を願います。

注）「支援日誌」は長澤正隆 Facebook を基に修正加筆を行った。

■支援状況

□第１回 川口医療相談会

日時：2021 年 4 月 18 日（日）13 時 30 分～16 時 15 分

場所：川口市 産業技術センター

主催：北関東医療相談会、クルドを知る会、VIDES JAPAN

1）医療相談会の結果

受診者

・28 名（男性 16 名・女性 12 名・その他 1 名）

‣未成年 9 名　‣20 代 6 名　‣30 代 7 名　‣40 代 3 名　‣50 代 2 名　‣不明 1 名

医療相談内容

・歯科検診 13 名

・内科検診 15 名

‣頭痛　‣肩痛　‣物忘れ　‣先天性心疾患　‣高血圧・血圧計購入　‣左下肢骨痛

‣両肩・上肢痛　‣せき　‣糖尿病ｲﾝｼｭﾘﾝ　‣右麻痺　‣鼻血　‣全身発疹　‣腰ﾍﾙﾆｱ BP

‣喘息　‣B 型肝炎　‣脳の病気で歩行不可

・紹介状　　4 名

2）アンケートの結果

アンケート回答者 9 名。回収率 32.1%、子どもを除くと 47.4%。

①受診者について

性別は男性 5 名・女性 4 名、年齢は 30 代以下の受診者が多い状況でした。国籍はクルド・トルコで、在留資格は仮放免が多く、滞在年数は 7～9 年が多い状況でした。

表１　性別

男	5
女	4
その他	0

表2　年齢

10代	1
20代	2
30代	2
40代	0
50代	1
60代	0
不明	3

表3　国籍

クルド	2
トルコ	7

表4 在留資格

あり	4	**なし**	5
技能実習	1	仮放免	4
短期滞在	1	不明	1
不明	2		

表5　滞在年数

1~3	1
4~6	2
7~9	4
10~12	1
不明	1

②医療相談会・傷病について

ほとんどの受診者が医療相談会に初めての参加、全員がとても満足・満足でした。4 名が傷病あり、傷病内容は糖尿病と脳梗塞、発症場所は母国と入管でした。

表6　医療相談会の参加

初めて	8
2回以上	1

表 7　医療相談会の内容

とても満足	5
満足	4
やや不満足	0
不満足	0

表8　傷病の有無

あり	4
なし	3
不明	2

③住まい・仕事・収入について

ほとんどの受診者が借家、世帯人数は 4 人以上の複数人世帯が多い状況でした。ほとんどが就労しておらず、年収は本人収入・世帯収入ともに 99 万円未満が多い状況でした。

表9　住まいの状況

借家	8
持家	1

表10　世帯人数

1人	0
2人	2
3人	0
4人	2
5人	2
6人	3

表11　仕事の有無

あり	1
なし	8

表12　年収（本人）

0~99	4
不明	5

表13　年収（世帯）

0~99	5
不明	4

④おわりに

アンケート結果から、医療相談会に訪れたクルド・トルコの人たちは、30 代以下の若年層が多いにもかかわらず、非就労であり、年収が 99 万円未満であることがわかりました。2019 年現在の日本における貧困線（この線を下回ったら貧困状態とみなされる）は 124 万円であり、受診者全員が貧困状態に置かれています。また、受診者の滞在年数は 4 年以上と中長期の滞在となっています。ここからは、滞在年数の長さが受診者の生活状況の改善に影響を及ぼしていないことが読み取れます。その背景には、仮放免者の置かれている働けない・生活保護も受けられない状況など様々な問題があることが考えられます。

外国人であろうが、在留資格が無かろうが、貧困状態に置かれ続けることはあってはなりません。現在、外国人の生活や生命を制限する入管法「改正」の議論が国会で行われていますが、むしろ、仮放免者など外国人の医療・生活保障を規定する入管法こそが整備されるべきです。

□個別支援（アウトリーチ支援）

・10 名程度で個別支援。
　相談支援や医療支援、入管関係支援などを行う。

□電話相談（受信・発信件数）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
27	38	33	20	28	36	31	36	52	14	17	13	48	28	35

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
38	40	45	28	35	39	26	22	24	23	55	31	47	28	40

・電話相談総件数　977 件
・1 日平均　　32.5 件（最大 55 件）

□食料・生活必需品等の配布

・食料（米、おかず、野菜、調味料など）　　36 件
・新型コロナウイルス対策物資（消毒液、マスク、石鹸）　232 人×2 か月分

□住居支援

①群馬県高崎市に「めぐみアパート」3 部屋借り上げ。

仮放免のフィリピン人 2 人が入居中。

②埼玉県杉戸町に「すぎとの家」1 軒借り上げ。

仮放免家族（5 人）が暮らしていたが現在は入居調整中。

□メディア掲載

①4 月 9 日　毎日新聞デジタル

「死の直前『漢字勉強したい』カメルーン出身者は救えなかったのか」

②4 月 27 日　毎日新聞夕刊 1 面・9 面

「死後に届いた在留カード 2 度入管収容 病状悪化のカメルーン女性」

編集：大澤優真